



2025年5月2日

第25007号

JTA 2025年3月期(第58期)業績について

日本トランスオーシャン航空(本社:那覇市、社長:野口望)は、このほど2025年3月期(第58期)業績(2024年4月1日～2025年3月31日)を取りまとめました。

当期は、2024年度の沖縄県の入域観光客数(速報値)が過去最多に次ぐ995万人を記録するなど国内の旅行マインド回復により、観光需要が増加しました。また、インバウンド需要が拡大し、通期の旅客需要は好調に推移しました。

一方で、物価高騰による各種費用の増加や為替影響を大きく受ける整備費等の増加により費用は増加しました。

このような経営環境において、当期全体では、収支改善を図るべく引き続き収入の最大化・費用の抑制に努め、売上収益が前年同期比108.8%の507億円、営業利益は29億円、経常利益は29億円、純利益は18億円となり、3期連続の増収増益となりました。

1. 2024年度

(金額の単位:億円)

	2023年度	2024年度	2023年度 同期比(%)
売上収益	465	507	108.8
営業費用	443	477	107.8
営業利益	22	29	128.7
経常利益	21	29	136.8
純利益	15	18	117.4

(1)売上収益 507億円(前年同期比 108.8%)

①旅客収入:434億円(前年同期比 109.1%)

前年度に比べて台風の影響が少なかったことに加え、繁忙期の増便やチャーター便の運航、タイムセール等の各種キャンペーンによる需要喚起が奏功したことから旅客収入は全ての月で前年度を上回り、好調に推移しました。

この結果、提供席数は473万3千席(前年同期比 101.6%)、旅客数は338万7千人(同 109.1%)、旅客収入は434億円(同 109.1%)と前年を上回りました。

②貨物・郵便収入:18億円(前年同期比 99.7%)

県内線は那覇発先島行の宅配貨物が堅調に推移しましたが、先島発那覇行の野菜・果実が減少しました。県外線は全般的に宅配貨物や一般貨物が伸び悩みました。

結果、貨物郵便の物量は21,996トン(前年同期比 93.8%)となり、収入は18億円(同 99.7%)となりました。

③付帯事業収入:15億円(前年同期比 95.5%)

外航の復便に対応し、運航整備受託収入は前年同期比117.8%に増加しましたが、他の付帯事業収入が振るわず、全体で15億円(前年同期比95.5%)となりました。

**(2) 営業費用:477億円(前年同期比 107.8%)**

運航諸元増や為替影響により、燃油費は前期差10億円増、整備費で同7億円増、その他変動費で同8億円増となりました。また、物価上昇やベースアップ実施等により、その他固定費等が9億円増となりました。前期に続き細部にわたる費用の抑制に努めたものの、結果として営業費用は前期差35億円(前年同期比 107.8%)の増加となりました。

(3) 輸送実績

	2023年度	2024年度	2023年度 同期比(%)
有償旅客数(千人)	3,105	3,387	109.1
有償旅客キロ(千人キロ)	2,494,284	2,746,152	110.1
有効座席キロ(千席キロ)	3,580,361	3,640,039	101.7
有償座席利用率(%) ※1	69.7	75.4	5.8
貨物・郵便合計重量(トン)	23,442	21,996	93.8

※1 有償座席利用率の2023年度比はポイント差となります。

2. 2025年度の収支計画

今年度は、旺盛なインバウンド需要の獲得や沖縄観光需要の更なる平準化に取り組み、国内外からの航空需要の取り込みを積極的に進めてまいります。

そのような中、2025年度の通期業績目標としては、売上収益536億円(前期比105.8%)、営業利益31億円、経常利益32億円、当期純利益22億円を目指してまいります。

当社は、これからも安全運航を大前提に、「うちの翼」として、創業以来のビジョンである沖縄への貢献を果たし、沖縄に一番必要とされるフルサービスキャリアを目指すとともに、沖縄の更なる発展に向けて引き続き取り組んでまいります。

2026年3月期の収支計画(2025年4月1日～2026年3月31日)

(金額の単位: 億円)

	2024年度	2025年度	2024年度 同期比(%)
売上収益	507	536	105.8
営業費用	477	504	105.6
営業利益	29	31	109.0
経常利益	29	32	108.9
純利益	18	22	123.3

以上